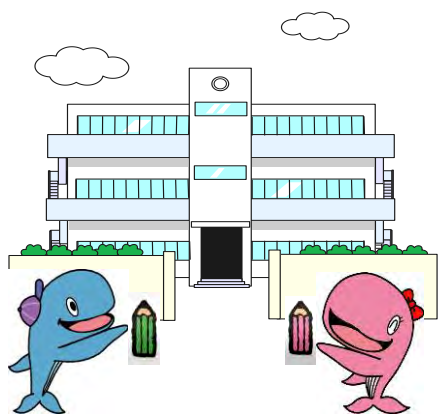
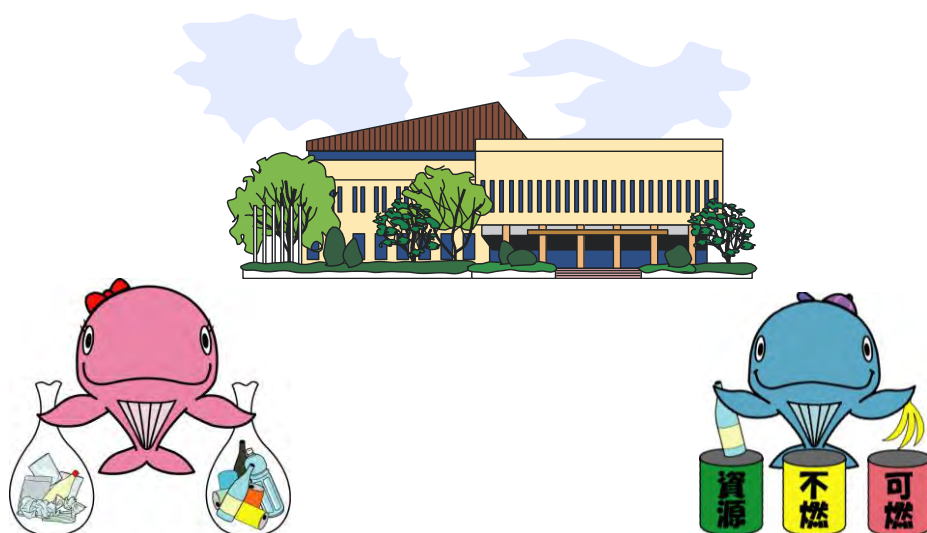




やさしい 昭島市の財政

【平成26年度決算】



平成27年 9月
昭 島 市

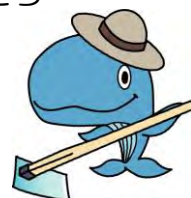


はじめに

この冊子は、昭島市の財政白書である「昭島市の財政」の平易版として作成しています。

財政白書は、財政状況を様々な側面から考察しており、地方自治体の財政状況を知るうえで非常に重要な冊子です。その一方で、専門的な表記も多く、市民の皆さんにとって身近なものではありませんでした。

そこで、昭島市の財政をできる限り分かりやすくお知らせするために、「やさしい昭島市の財政」を作成しました。作成に当たり、自治体の財政についてあまり関わりのない方や学生の方々にも読みやすいように工夫しています。これを読んでいただき少しでも昭島市の財政について関心をもっていただけたら幸いです。



目次

I 財政	1
II 歳入（税金）	2
III 歳入（税金以外の歳入）	5
IV 歳出	10
V 市債と基金（借金と貯金）	14
VI 財政状況	18

この冊子を読むに当たって・・・

この冊子は、昭島市公式キャラクターの



アッキーと



アイランが会話をする形式で内容を構成しています。

ぼくたちが、昭島市の
財政を分かりやすく説
明します！



（昭島市公式キャラクター アッキー＆アイラン）

※ 各表の計数は、原則として表示単位未満を四捨五入し、端数整理をしていないため、合計額等と一致しないことがあります。

※ 本冊子中の「26市」とは、昭島市を含む東京都内26市です。



I 財政

財政ってどんなもの？

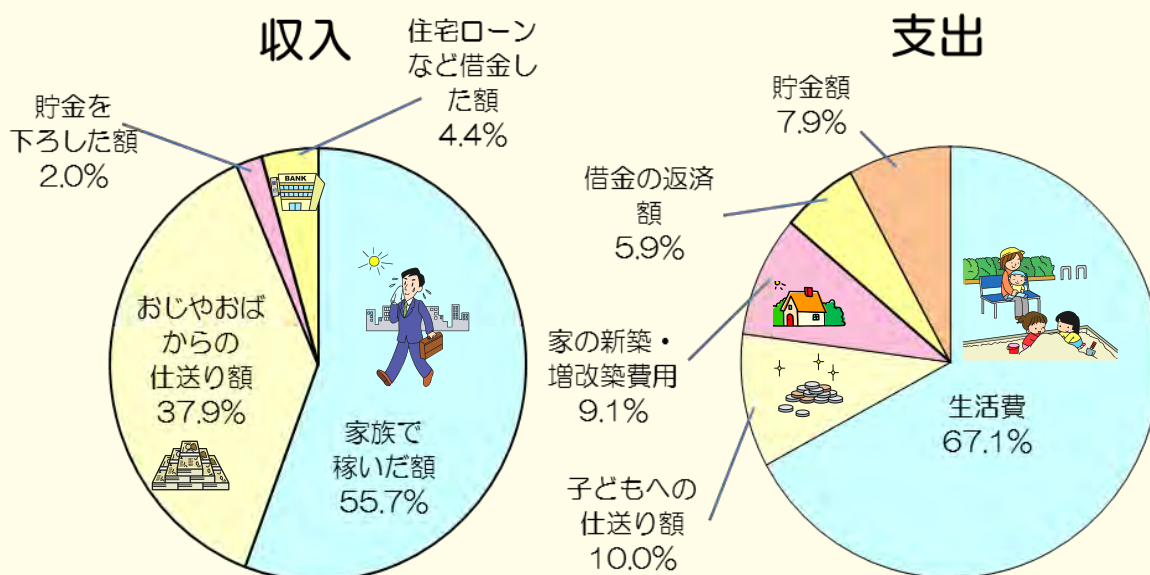


「景気は回復してきたけど、まだまだ国や市役所の財政が厳しいってニュースで聞いたけど、『財政』ってどういうものなの？」



「財政とは、みんなから集めたお金をみんなのために使う仕組みのことで、みんなが住んでいる市町村の家計のようなものだよ。みんなが会社からもらう給料などで生活しているように、市町村もみんなが納めた税金、国や都からの補助金などで学校の運営や道路の工事をしているんだ。みんなが住む昭島市の財政を下の『表1』のように、家計に置き換えてみるとわかりやすいかな。」

表1 平成26年度の財政状況



< 収 入 >

家族で稼いだ額：市税、使用料・手数料、分担金・負担金など

おじやおばからの仕送り額：国庫支出金・都支出金、地方譲与税、地方交付税、各種交付金

貯金を下ろした額：基金繰入金

住宅ローンなど借金した額：市債

< 支 出 >

生活費：人件費、扶助費、補助費等、物件費など

子どもへの仕送り額：繰出金

家の新築・増改築費用：建設事業費

借金の返済額：公債費

貯金額：積立金

こう見ると色々な収入と支出があるのね。



◆収入額	446億円	◆貯金残高	97億円（収入の約5分の1）
◆支出額	434億円	◆借金残高	229億円（収入の約2分の1）





Ⅱ 歳入（税金）



税金とは？



「まずは一般会計の『歳入』について見てみよう。『一般会計』とは、福祉、教育、ごみの処理など広く住民に対して市役所が行う事業に関して、基本的な収入や支出を管理している会計をいうんだよ。」

また、『歳入』とは、4月から3月までの1年間に市町村に入ってくるお金のことなんだ。歳入には色々なものがあるけど、『税金』から話すね。」



「そもそも税金って何のためにあるの？」

「税金は、防災、消防、道路の整備といった『みんなのために役立つ活動』、医療、介護、福祉などの『社会での助け合いのための活動』や学校の運営や教材費などの『教育のための活動』などに使われているんだ。つまり税金は、みんなで社会を支えるための『会費』といえるね。税金は下の『表2』のように何種類もあって、このうち『市町村税』の欄の税が『市税』として昭島市に納められるんだ。また、東日本大震災の影響を受けて復興のための増税がなされたんだ。」



「そうなんだ。ところで、復興のための増税ってなに？」



「その内容は、市民税の均等割額が、平成26～35年度までの10年間は5百円増えたり、会社を退職する時にもらう退職金にかかる税金の控除が、平成25年1月1日以降の支払いに係る分から廃止されたんだ。その増税分のお金は昭島市内の防災や減災のために使われるんだよ。」

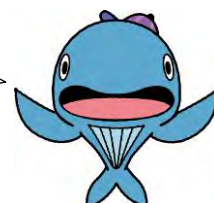


「知らなかったわ。災害に強い街づくりを進めて欲しいわね。」

表2 税金の種類

	国税 (国に納める税)	地方税（都道府県・市町村に納める税）	
		都道府県税	市町村税
直接税 (税金を負担する人が直接納める税)	所得税 法人税 贈与税 相続税など 	都道府県民税 事業税 自動車税 など 	個人市町村民税 法人市町村民税 固定資産税 軽自動車税など 
間接税 (物を買ったりした人が負担し、お店等が納める税)	消費税 酒税 たばこ税 関税など 	地方消費税 都道府県たばこ税 ゴルフ場利用税 など 	市町村たばこ税など 

地方税のうち「市町村税」の部分が昭島市に納められる税金なんだ。





平成26年度の市税収入の特徴

「それじゃあ、平成26年度は昭島市にどれ位の税金が入ったの？」

「全部で193億円納められたんだ。その内訳は下の『表3』のようになるよ。

平成26年度の市税の収入は、平成25年度に比べて6億6千万円増えたけど、一番市税収入が多かった平成19年度と比べると9億2千万円も少ないんだ。」

表3 平成26年度市税収入の内訳

個人市民税  67億7974万円	法人市民税  18億4104万円	固定資産税  82億6852万円
都市計画税  14億7657万円	市たばこ税  8億5702万円	軽自動車税  9036万円

合計額193億1325万円（市民1人当たり17万1177円）



「そんなに減っちゃったの。何が原因なのかしら？」

「景気は回復してきているけど、お父さんたちがもらう給料などに影響が出るのに時間がかかっていることかな。

市税のうち、会社などが納める法人市民税は回復してきたけど、個人が納める個人市民税は、給料などが増えないと税収に反映されないんだよ。だからまだ厳しい状況が続いているんだ。」

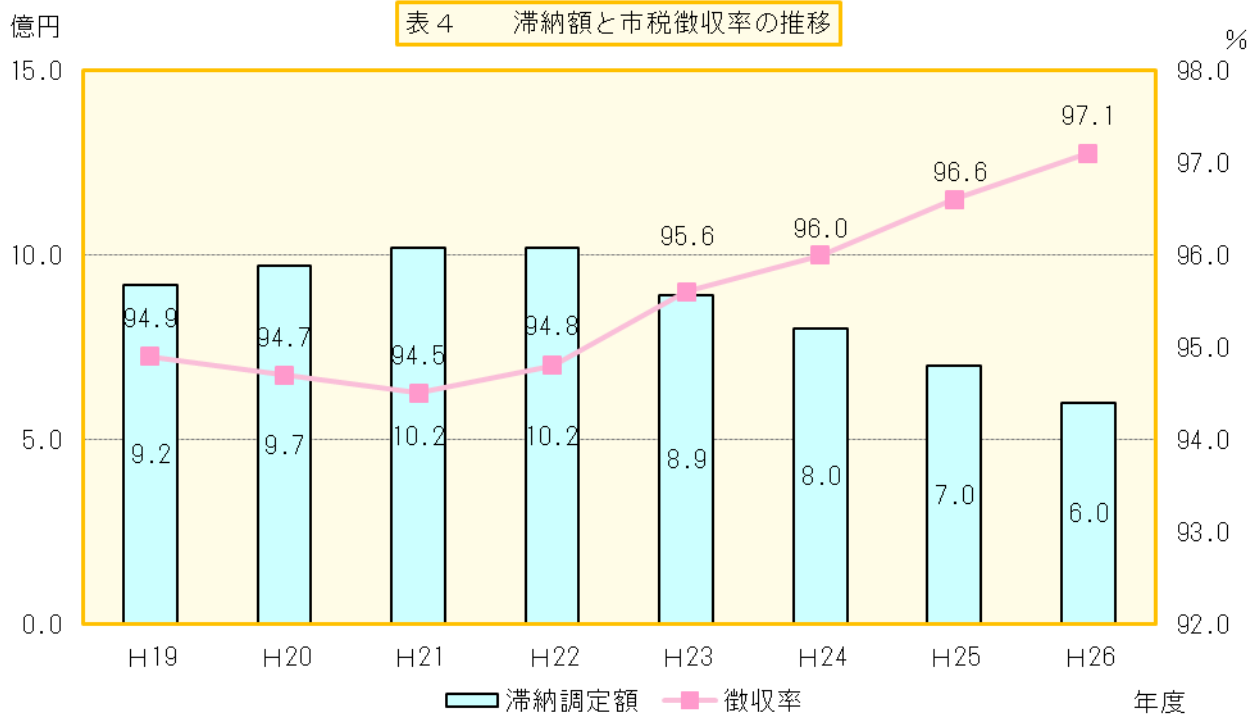


「平成19年度と比べるとどのくらいなの？」



「個人・法人合わせて平成26年度の市民税が86億2千万円だったのに対して、平成19年度は95億3千万円だったから、比べると9億1千万円も減ってしまっているんだ。会社やそこで働く人たちの収入が減るのは大変だけれども、そうになると国や市町村に納める税金も減ってしまう。昭島市の収入である税金が少なくなると、昭島市がサービスを行うのもやりくりが大変なんだよ。また、市税を期間内に納めてくれない『^{たいのう}滞納』も問題になっているね。次のページの『表4』を見てみてよ。」





「市税がどれくらい納められたかを『徴収率』というんだけど、平成26年度は、97.1%だったんだよ。平成25年度に比べると徴収率は良くなったけど、それでも滞納額はまだ6億円にもなるんだ。」



「払われていない税金ってそんなにあるの!？」



「色々な事情があって税金を納められない人もいるけれど、みんなに公平に税を負担してもらわなくてはいけない。だから、昭島市ではコンビニエンスストアやクレジットカードで納税できるようにして、税金を納めやすくしたり、休日に窓口を開いて収納をお願いしたり、夜間に収納をお願いする電話をするなどして、これ以上滞納額が増えないように頑張っているんだって。」



「徴収率も平成25年度と比べて0.5ポイント増えるし、これ以上滞納額が増えないためにも頑張ってもらいたいけど、やっぱりみんなが自分からきちんと税金を払ってもらいたいわね。」



「歳入には、ほかにどんなものがあるのかしら?」



「それでは、ほかの歳入について見てみよう。」

みんなちゃんと税金を納めてほしいわね。





Ⅲ 歳入（税金以外の歳入）



税金以外の歳入



「市町村の歳入には、税金のほかに主なものとして^{こっこししゅつぎん}国庫支出金・^{とししゅつぎん}都支出金、^{しやうりよう}使用料・^{てすうりよう}手数料、^{ぶんたんきん}分担金・^{ふたんきん}負担金、^{ちほうこうふぜい}地方交付税、^{しさい}市債といったものがあるんだ。どんなものなのか、それぞれ順番に見てみよう。」



国庫支出金・都支出金



「まずは『国庫支出金・都支出金』だよ。」



「それってどんなお金なの？」



「ちょっと聞きなれない言葉だけど、これは、特定の事業を行うために国や東京都から市町村へ補助されるお金のことなんだ。昭島市の収入としては、税金の次に多く歳入全体の約3割を占めているんだ。」



「へえ～『特定の事業』ってどんなものがあるの？」



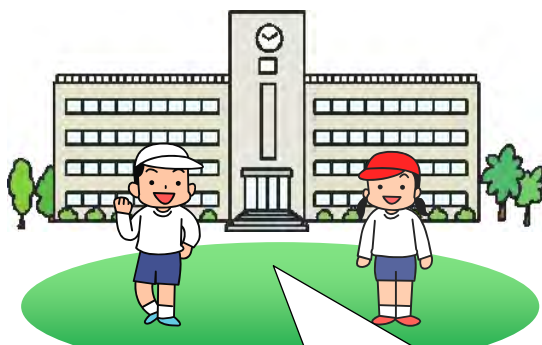
「例えば、昭島市の学校は空調設備が備えられていて、これを計画的に入れ替えているんだけど、平成26年度も1校の小学校で工事を実施したんだ。」



「空調設備があるおかげで、私たちは快適な環境の中で授業が受けられているのね。でも工事ってすごくお金がかかるんじゃないの？」



「そうなんだよ。でも厳しい財政状況の中でも、昭島市のお金だけだと実施するのが難しい事業も、国や東京都の補助金をうまく活用して事業を進めているんだよ。」



色んな人が国や都や市に納めた税金がもとになって、快適な学校生活を送れるね。



「ほかにはどんなものがあるの？」



「拝島駅南口地下自転車等駐車場の建設費や、小学校1校と中学校3校で行った体育館の防災機能強化工事などもそれに当たるよ。」



「こうやって見ると、色々やっているのね。」



「そうなんだ。市町村は、色々な事業にかかる費用の全部又は一部を国や東京都から補助してもらっているんだ。そのお金を歳入の中で『国庫支出金・都支出金』と呼んでいるんだよ。」



「そうなんだ。次は？」





使用料・手数料



「次は『使用料・手数料』だよ。これは、みんなが市町村の施設を利用するときに支払うお金や、ごみの収集袋を買うときに支払うお金などのことなんだ。」



「例えば、駅の近くに昭島市の自転車駐輪場があるよね。」

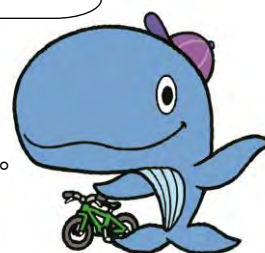


「うん。この前、自転車を停める人が、100円を払っているのを見たわ。」



「自転車駐輪場はいつもきれいに自転車が並んでいるよね。利用する人たちが、いつも気持ち良く利用することができるように管理をしているんだけど、平成26年度では約1億4千万円ものお金がかかっているんだ。そのため、利用する人たちから使用料というお金を払ってもらって、自転車駐輪場の管理費にあてているんだよ。」

昭島市には駐輪場が17箇所あるんだよ。



「じゃあ、手数料ってどんなものがあるの？」



「生活すると必ず出るのが『ごみ』だよ。」



「そうだね。お菓子を食べた後の袋やジュースを飲んだ後の空き缶やペットボトルなどいろいろな『ごみ』が出るわね。」



「市町村の代表的な市民サービスとして、ごみの収集や処理の業務があるんだけど、昭島市では『燃えるごみ』や『燃えないごみ』などを出すときには、コンビニエンスストアやスーパーなどで売っている昭島市が指定したごみ収集袋を買って、ごみを出さなければならないんだ。」



「ということは、ごみを出すにはお金がかかるってことなの？」



「そうなんだ。昭島市には約11万3千人が暮らしているんだけど、当然、ごみもたくさん出ることになり、ごみの収集や処理に係る経費は年間17億2千万円くらいかかっているんだ。そこで、昭島市は、ごみを減らすことも目的として平成14年度からごみ収集の有料化を実施したんだ。昭島市が指定したごみ収集袋の購入代金手数料になり、平成26年度は約2億円の収入があったんだよ。」



「使用料と手数料って、1年間にどのくらいの収入があるの？」



「平成26年度はおよそ8億7千万円で、歳入全体の1.9%を占めているよ。」



「そんなにあるんだ！」





分担金・負担金



「今度は『分担金・負担金』だよ。あまり聞かない言葉だけど、どんなものだと思う？」



「何だろう。ちょっと分からないわ。」



「市町村が行っている特定のサービスを受ける人が、サービスを受けるために負担する（支払ってもらふ）お金のことなんだよ。たとえば、保育園に通うときに保育園に支払うお金は、保育料という『負担金』なんだよ。」



「保育園に通うのにどうしてお金を払う必要があるのかしら？」



「保育園を運営するにはたくさんのお金がかかっているんだ。そこで、保育園の運営に必要な費用の一部を保護者に負担してもらっているんだよ。」



「知らなかったわ。ほかには？」

保育園は、お父さん
お母さんたちが払っ
ている保育料と

昭島市に住む人
たちが納めてく
れた税金と

国や東京都から
の支出金で運営
されています。



地方交付税



「ほかには『地方交付税』というものがあるよ。これは法律で定められた一定の基準によって、国に納められた所得税などの税金の一部が、国から都道府県や市町村へ配分されるお金なんだ。地方交付税は『普通交付税』と『特別交付税』の2つがあって、簡単にいうと『普通交付税』は国が定めた基準によって計算された収入が支出よりも少ない場合に、その分を国が配分して交付する制度なんだ。これにより、私たちが日本のどこの市町村に住んでいても教育や福祉など一定水準の行政サービスを受けることができるようにしているんだ。」



「じゃあ、全部の都道府県と市町村は『普通交付税』をもらっているの？」



「平成26年度では、47都道府県のうち、東京都だけがもらっていないんだよ。国が定めた基準によって計算された支出より税金などの収入の方が多かったからなんだ。東京都は、昭和29年度に現在の地方交付税制度ができてから、一度も『普通交付税』をもらっていないんだ。また、東京都の39市町村のうち平成26年度に『普通交付税』をもらっていないのは、立川市や武蔵野市などの6市だけで、昭島市も景気低迷の影響から市税収入が減ったことなどにより、平成22年度からは『普通交付税』をもらっているんだよ。」



「じゃあ『特別交付税』はどんなお金なの？」



 「『特別交付税』というのは、地震や台風や大雪などの自然災害の発生により受けた被害から復興するための費用や大雪の除雪費用など、急にお金が必要になった時に国から交付してもらおうお金なんだよ。そういえば、昭和記念公園の近くの工事現場で不発弾が見つかって、爆破処理したことがニュースになったよね？そういう費用も対象になっているんだよ。」

 「へえ〜。昭島市には『普通交付税』と『特別交付税』は、どのくらい入ってくるの？」

 「平成26年度は7億2千万円入ってきたよ。そのうち5億9千万円が、『普通交付税』なんだ。ただ、これは市の独自の収入が少ないことを意味するので、決して良いことばかりではないんだよ。」

 「そうなんだ。」

 「それから、平成23年度からは震災復興特別交付税というものも交付されているんだ。例えば、車を買うと自動車取得税という税金がかかって市の税収となるんだけど、震災の被災者に対してはこの税金が安くなる制度があるんだ。そこで、市の税収が減ってしまった分を、被災者に代わって国が市に支払ってくれるんだ。これが震災復興特別交付税というものなんだよ。」

 「いろいろな種類の交付税があるのね。」



市債

 「それ以外にも市債というものがあるんだ。簡単にいうと借金による収入なんだけど、詳しくは『市債と基金』のページで説明するね。」



平成26年度の歳入の特徴

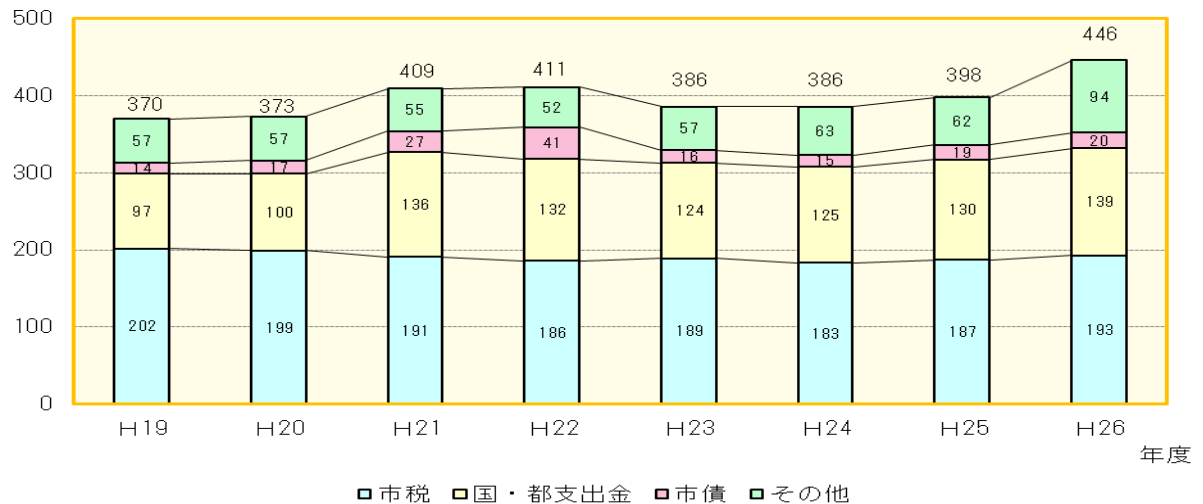


「それでは平成26年度の歳入の特徴を見てみよう。」

景気は回復しつつあるけれど、給料などに影響が出るには時間がかかっていて、個人市民税は少し減ってしまった。だけど、増収になった企業があって法人市民税が増えたことなどによって、市税全体では、6億6千万円増えて193億円になったんだ。それから、特別会計や市の貯金（基金）から繰り入れるお金である『繰入金』が、6億5千万円増えて8億7千万円に、収入の内容により、他の収入項目に含まれないものをまとめた『諸収入』が18億5千万円増えて28億1千万円になっているよ。歳入全体では平成25年度より48億4千万円増えて446億4千万円となっているよ。」

億円

表5 歳入額の年度別推移



「なるほど。全体の収入は増えたのね。」



「上の『表5』で詳しく見てみよう。例えば国・都支出金が平成25年度と比べて9億円増えている。これはさっき説明したとおり、特定の事業のためにもらったお金だね。また、表ではその他に含まれている諸収入が、立川基地跡地の整備のために国などからもらった負担金が増えたことなどが大きく影響して18億5千万円増えているんだ。でも、これらのお金は使い道が決まっているお金だから、自分たちで自由に使えるお金ではないんだ。単純に歳入の増減だけではなく、こういった種類の歳入が増えたかが、重要になるんだよ。」

歳入のうち「市税」が増えると、使い道が限定されない収入になるので、ある程度自由に使えるお金が増えることになります。





IV 歳出

何にお金を使っているの？



「歳入の主なものは、これまで話したとおりだよ。じゃあ今まで話してきた収入が、どの様に使われているのか、次に『歳出』について話すね。」

歳出とは、4月から3月までの1年間に市町村が使うお金のことだよ。昭島市では平成26年度に433億6千万円のお金を使ったんだよ。」



「そんなに使ったの！でも、何にお金を使ったのかよくわからないわ。一体、どんなことにどれ位のお金を使ったの？」



「金額も大きいし、想像もつかないよね。じゃあ、市民1人당に何のために使ったお金がいくらになるのかに例えて考えてみよう。下の『表6』は、平成26年度に昭島市が使ったお金を1人當りの金額にした表だよ。赤ちゃんからお年寄りまで、1人1人にこれだけのサービスが提供されたことになるよ。」



「福祉のために使われているお金が一番多いのね。」

表6 何のために使ったの？

民生費 福祉サービスを行うために使ったお金 保育園の運営 人件費 管理運営経費 など  17万4875円	総務費 税金の徴収などを行うために使ったお金 人件費 管理運営経費 など  7万1456円	教育費 教育などを行うために使ったお金 学校の教材費 学校管理費 スポーツ施設管理費 など  4万3459円
衛生費 衛生的な生活を送るために使ったお金 予防接種 人件費 ごみ処理経費 など  2万7986円	土木費 道路の整備や管理のために使ったお金 設計・建設費 人件費 管理運営経費 など  2万4593円	公債費 借りていたお金を返すために使ったお金 市債の返済  2万2558円

※その他(消防費・議会費・労働費・農林費・商工費)1万9339円



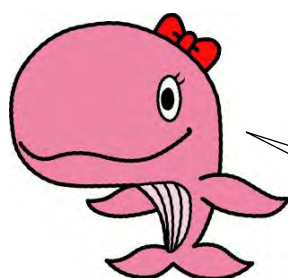
「『表6』は、何のためにお金を使ったかを示した表なんだ。もう一つ、次のページの『表7』を見てみよう。今度の表は、どんなことにお金がかかったかを示した表だよ。」



表7 どんなことにお金がかかったの？

扶助費 福祉サービス自体にかかったお金 児童手当 生活保護費 など 11万7362円	人件費 職員の給料などにかかったお金 市長や職員の給料 議員や委員の報酬 など 5万5502円	物件費 行政サービスを運営するためにかかったお金 通信運搬費 委託料 賃借料 など 5万3255円
繰出金 他会計や基金へ渡したお金 3万8555円	普通建設事業費 建物を建てること自体にかかったお金 道路建設費 学校の芝生化 など 3万4828円	積立金 市の貯金である基金に積み立てたお金 3万378円

※その他(補助費等・公債費・維持補修費・投資及び出資金・貸付金) 5万4386円



平成26年度は1人当たり
38万4266円分のサービスを提供したことになるよ。

2つの表を見ると、福祉関係への支出が圧倒的に多いわね。



「一番払っている金額が多いのは、『扶助費』なのね。具体的には、どういうことをするの？」

「例えば、児童手当を支給したり、保育園を運営したりするのに必要なお金や、障害者や生活に困っている人たちを支援するためのお金のことだよ。昭島市は多摩地域の26市の平均と比較しても扶助費の額が大きいんだ。この『扶助費』については、これから給付する基準やどのくらい本人に負担をしてもらうかなどについて、もっとよく考えていく必要があるんだ。」

「いいサービスを提供しつつ、お金がかからないように考えるってことだよな。難しいわね。」



平成26年度の歳出の特徴

「次に、平成26年度の歳出の特徴を見てみよう。」

「うん。」

「平成26年度の歳出は、生活保護費や障害者自立支援給付費などの増により扶助費が2億6千万円も増えているし、拝島駅南口地下自転車等駐車場や新し



い道路の建設などにより、普通建設事業費が12億3千万円も増えているんだ。さらに、立川基地跡地整備のために国からもらった負担金などを、今後予定されている工事などに使うために貯金として積み立てたことで、積立金が23億5千万円も増えたんだ。結果として総額では平成25年度より49億円の大幅な増加となったんだ。主な事業は、下の『表8』のとおりだよ。」

表8 平成26年度の主な事業

心ゆきかう あきしま（明るい地域社会の形成）	
松原町コミュニティセンター開館	4062万円
街頭防犯カメラ設置	225万円
玉川備蓄倉庫新築工事	6442万円
ともに支えあう あきしま（健康と福祉の充実）	
がん検診	1億1288万円
私立保育園運営	35億7918万円
生活保護法に基づく扶助	42億4041万円
未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）	
中神小除湿温度保持機能復旧工事	2億3100万円
小中学校体育館防災機能強化工事	4億847万円
(仮称)教育福祉総合センター整備	766万円
環境をつなぐ あきしま（循環型社会の形成）	
地球環境保全連携事業	285万円
住宅用新エネルギー機器等普及促進補助	480万円
ごみ減量化・資源化	7億4653万円
基盤を築く あきしま（快適な都市空間の整備）	
拝島駅南口自転車等駐車場整備工事	10億2962万円
東中神駅自由通路等整備	9898万円
拝島駅南口周辺都市計画道路整備	1億6626万円
躍動する あきしま（産業の活性化）	
昭島ブランド・フードグランプリ	350万円
観光まちづくり協会補助	2113万円
中小企業支援事業	2324万円
市制施行60周年記念事業	
市政施行60周年記念式典の開催	237万円
ベートーヴェン「第九」演奏会	300万円

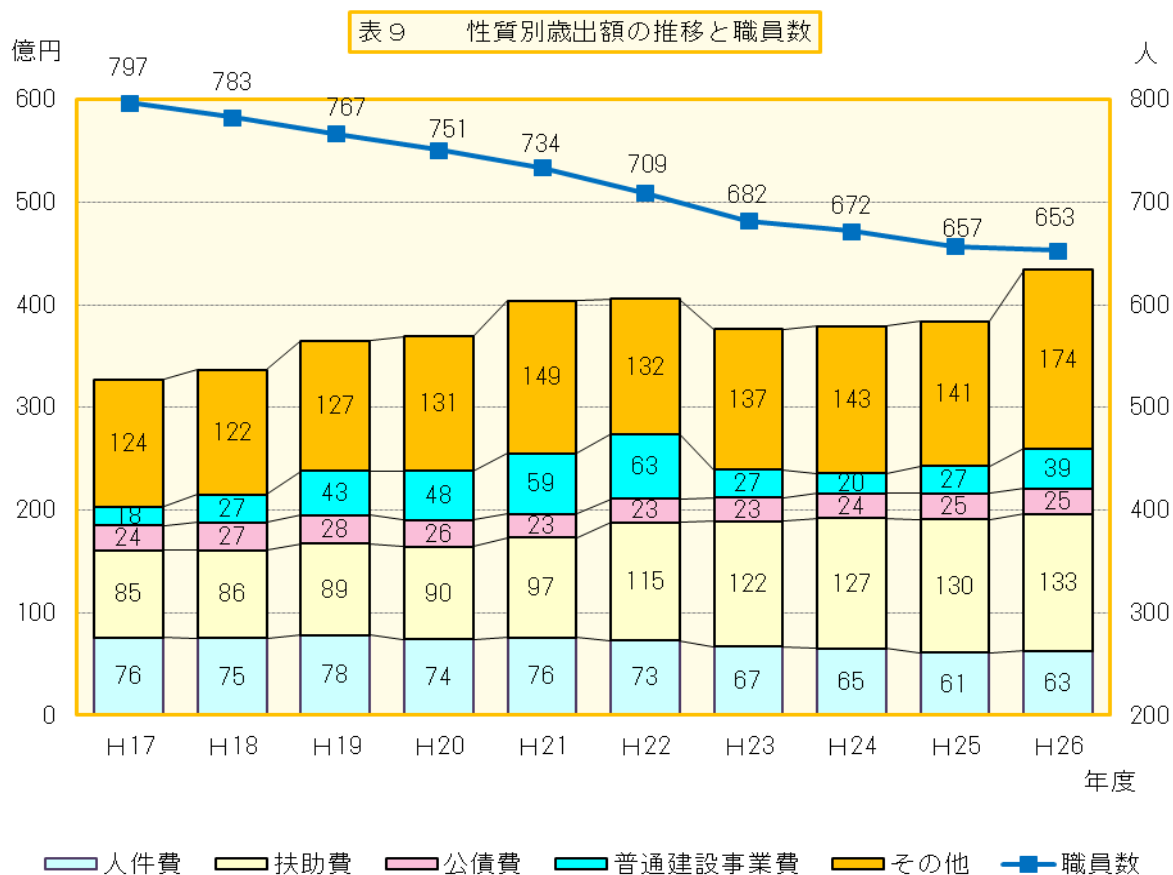




「実際に目には見えないけれど、昭島市は色々なことにお金を使っているのね。これも、みんなの税金などで払われているんだから、大切に使わなくちゃ。」



「そうだね。また、『表9』のとおり扶助費が増える傾向にあって、9年前に比べると1.6倍位に増えているんだよ。歳入は簡単には増えないから歳出を減らすしかないんだ。そのため昭島市では、施設の管理運営方法やさまざまな事務事業を見直し、市役所の運営を効率的に行いながら、9年前に比べ職員数を144人、人件費では13億円ほど減らしたんだよ。」



人件費 扶助費 公債費 普通建設事業費 その他 職員数



平成26年度は、積立金なども大きく増えたから、その他の項目も増えていることがわかるね。

市税など自由に使えるお金が増えない中、扶助費などのお金を減らすことはできないので、我々もいろいろな仕事を効率よく見直すとともに、職員数を減らしたりして、なるべくお金がかからないように努力しています。



V 市債と基金（借金と貯金）



市債



「歳出のページでは、昭島市も厳しい財政状況の中、頑張っているのがよくわかったわ。ところで、前のページの『表9』にある公債費^{こうさいひ}って、歳入のページで話してくれた市債と何か関係があるのかしら？」



「公債費とは過去に借り入れた借金を返済するお金のことなんだ。それでは、次に昭島市の借金と貯金について見てみよう。

まずは市の借金である市債から説明するね。昭島市も一般の人たちと同様にお金がない場合に、国や東京都などからお金を借りて工事のお金などを支払ったりしているんだ。昭島市が借金をする場合、『市債』という債券^{しゃくよう}（借用証書^{しゅうしよ}のようなもの）を起こして借りるんだ。だから市の借金を一般に市債といい、市債を発行することを『起債^{きさい}』というんだよ。市債は借金だから、当然のことながら借りたお金（元金）を返すときに、利子も付けて返済しなくてはいけないんだ。だから起債するときは注意をしなくてはいけないんだよ。」



「だったら、起債なんてしなければいいんじゃない？」



「もちろん借金は少ない方がいいんだけど、起債をすることには大きな意味があるんだ。では、ここで問題。市町村はその年に必要なお金を原則としてその年度に入った収入で支払っているんだ。けれど、この方法で建物などを作った場合、その後昭島市に引っ越してきた人たちは、そのお金を払うことになるのかな？」



「建物を作ったときに住んでいた人たちが払った税金で建てていることになるから、タダってことになるんじゃないかしら？」



「そのとおり。建物や道路は長い間使用することになるよね。1年後に昭島市から引っ越す人もいれば、10年後に産まれてくる人もいる。その人たちにも公平にお金の負担をしてもらうにはどうしたらいいかな？」



「使用する年数で費用を分けて払えばいいと思うわ。」



「そうだね。10年使用するなら費用を10年分で割り、毎年みんなで公平に負担して払えばいいよね。市債を返す場合は、20年とか長い年月をかけて返すことになる。さっきも話したけど、市債を返済するお金を公債費^{こうさいひ}というんだけど、平成26年度では、利子を含めて約25億円を支払っているんだよ。」



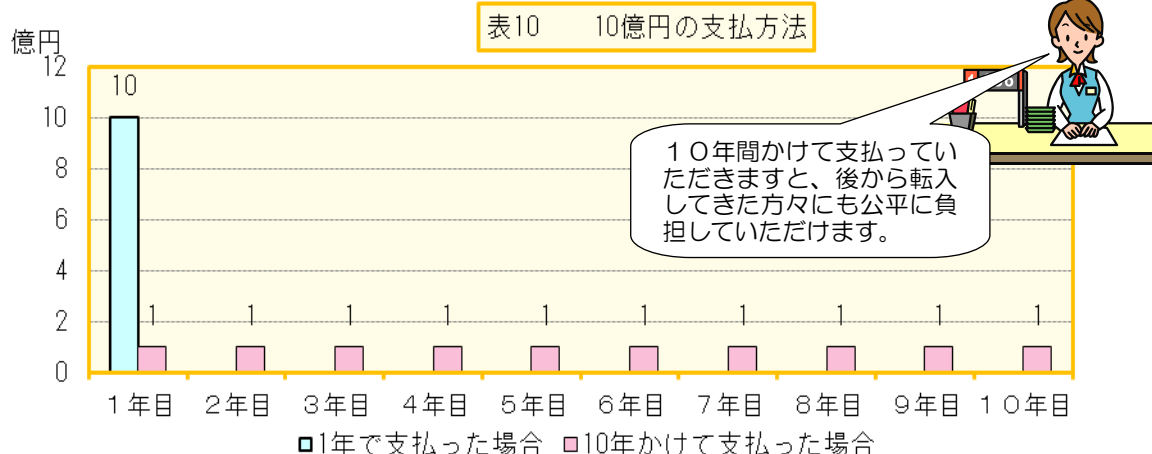
「みんなが使うものは、みんなで負担するってことなのね。」



「そのとおり。次のページの『表10』のとおり借金をする理由には、世代間でお金の負担を公平にするための役割もあるんだ。」

期限を守ってきちんと返してくださいね。



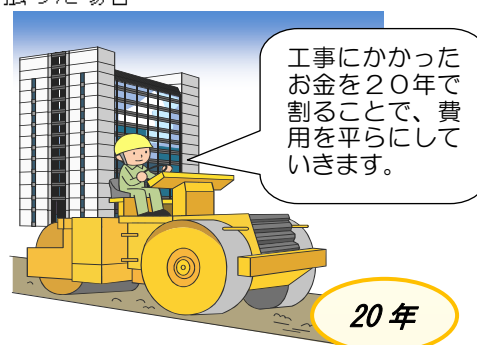


「そうなんだ。じゃあ市町村が借金をするのは建物とか道路を作るときだけなの？」

「原則としては、建物や道路を作るときなどに借りる「建設事業債」と呼ばれるものしか借りてはいけないんだ。ただし、例外として「赤字地方債」という借金をするときがある。これは言葉のとおり歳出が歳入より多くなり、借金をしなければ赤字になってしまう場合などに臨時で借りるお金なんだ。」

「けど、やっぱり借金はしないほうがいいんじゃない？」

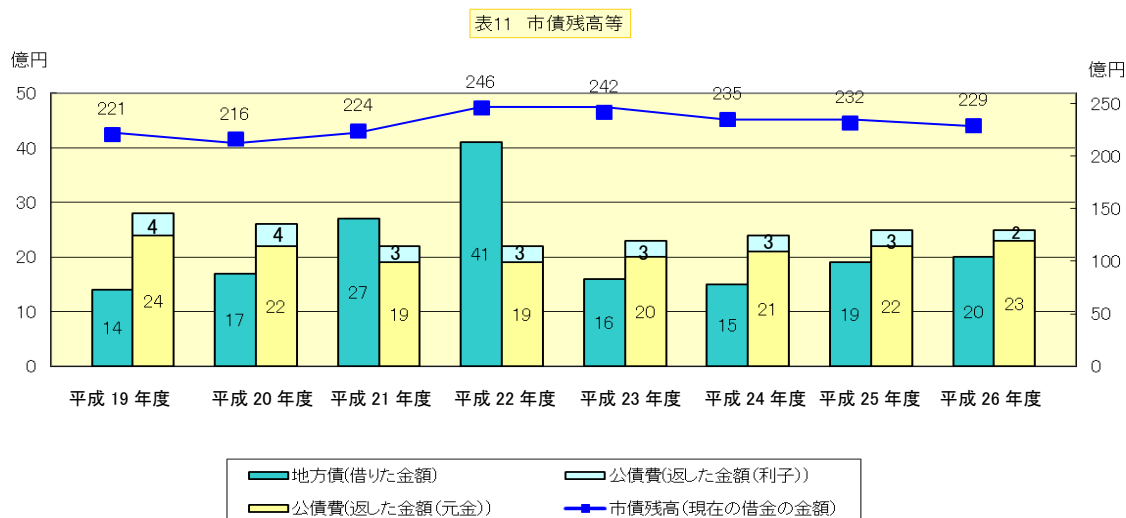
「そうだね。けれど現在のような不景気の状況では、赤字地方債を借り入れないでやりくりするのは難しいんだ。」



平成26年度の市債の特徴

「じゃあ、昭島市の今の借金の状態はどんな感じなの？」

「下の『表11』を見てごらん。ここ8年間にお金を借りた金額、返した金額、そして借金の残高が載っているよ。平成26年度は20億円を借りて 23億円の元金を返していることがわかるね。」



「平成26年度は、拝島駅南口地下自転車等駐車場整備や道路整備などに使うための借入れと、財源不足を補うための臨時財政対策債の借入れを行ったんだよ。」

※臨時財政対策債・・・市町村の財源の不足を補うために特例として発行される
地方債

「そうなんだ。今後も大変な状況は続くの？」

「そうだね。昭島市では今後立川基地跡地の開発や、それに伴う東中神駅周辺の整備、図書館（教育福祉複合施設）の建設など多くの建設事業の予定があるんだ。だから建設事業債を借りることが今後も増えるかもしれないね。そして、さっきの赤字地方債だね。『表11』では市債残高は総額しか載っていないんだけど、市債残高の半分以上が赤字地方債なんだ。さっきも言ったように赤字地方債は例外的に認められた借金だから多くなってしまうのは問題だね。だけど、景気が回復しないと赤字地方債をさらに借りなくてはいけないかもしれないんだ。」

市債は利子も含めて返さなくてはならないでしょ？
だったら必要最低限のお金だけしか借りないように頑張りたいね。



基金

「市債が借金ってことはわかったわ。じゃあ、貯金はないの？」

「貯金もちゃんとあるよ。市の貯金のことを基金というんだよ。基金には、景気が悪くなって歳入が減ったときなどに対応するための『財政調整基金』や、図書館の建設など、一時的に多額の費用がかかる特定の事業に対応するための『特定目的基金』があるよ。その年の歳入が減ったからといって、市民サービスにかかるお金は払わないわけにはいかないから、そういう時に対応するために、しっかりと貯金をしておかなきゃいけないんだ。家計でも同じように、学費や家の増改築などの将来の負担に対応するために貯金してるけど、それと同じで、今は大変でもできるだけ貯金をするようにしているんだよ。」

「ふ〜ん。じゃあ、昭島市の貯金額はどうなの？」

「次のページの『表12』を見てごらん。ここ8年間の基金がどれくらいあるのかを示した表だよ。」

「平成25年度に比べて30億円も増えているのね。」

「基金には歳入が減ったときに対応するための貯金と特定の事業を行うための貯金があると説明したよね？それぞれの貯金の状況について、次のページの『表12』で詳しく見てみよう。」

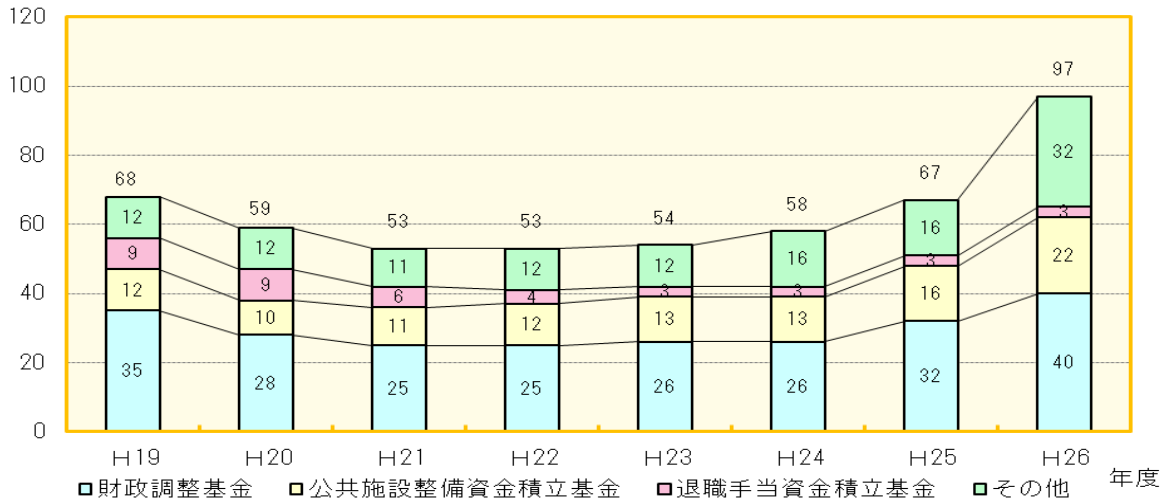


将来のお金が必要になりそうだから、基金に多めに積み立てておこう。



億円

表12 基金現在高の推移



「例えば『公共施設整備資金積立基金』の現在高は、平成25年度と比べて6億円増えている。また、その他の項目に含まれていて、表からは読み取れないけれど、『立川基地跡地昭島地区周辺都市基盤整備基金』の現在高が14億円増えているよ。これは、立川基地跡地の整備のために国からもらった負担金などを今後活用していくために、貯金したからなんだ。だけどこれらの貯金は使い道が限定されているから、もしもの時などに自由に使える貯金ではないんだ。だから単純に基金の増減だけではなく、こういった種類の基金が増えたかが、重要になるんだ。」

そこで、歳入が減ったときなどに対応するための『財政調整基金』の現在高についても見てみよう。平成25年度と比べると8億円増えて40億円になっているね。平成19年度と比べてみても5億円増えているよ。

景気がまた悪化した場合に、11ページで説明した扶助費が増え続けたとしたら対応できるかな？そのときに財政調整基金でしっかりと対応できるように備えておかなければいけないね。だから市債と同じようにきちんとした管理が必要になるんだ。」



「そうだね。貯金もいざという時の備えとして重要なんだね。だけど、借金を減らし貯金を増やすには、無駄なものを買わなければいいんだよね？だったら、昭島市も無駄な支出を抑えればいいってことかしら？」



「そうだね。ただ、支出を減らすことは市民サービスの低下につながりかねないから、なかなか難しいんだよ。さっきも言ったとおり扶助費はここ10年で、減るどころか1.6倍位に増えているよね？だから、みんながなるべくお金を使わないよう協力しないとけないんだよ。」

少しずつですが、財政調整基金の額が増えて、平成19年度の額を上回ることができました。





VI 財政状況



昭島市の財政状況は？



「どうかな？昭島市の財政のこと、少しはわかってきたかな？」



「う〜ん、昭島市が色々なことをやっているってことはわかったわ。でも、昭島市の財政状況っていいのかな？それとも悪いのかな？数年前に北海道の夕張市が『財政再建団体』^{さいせいさいけんだんたい}になったってニュースをやっていたのを思い出して、ちょっと心配になってしまったわ。」



「そうだね、財政状況を知りたいときは色々な指標（数値）を使ってチェックすればいいんだよ。例えば、さっき市債や基金の残高を説明したけど、これらも財政状況を判断するための大事な指標だよ。もちろん、市債の残額はできるだけ少なく、基金の残高はできるだけ多いほうがいいよね。」



「確かにそうね。でも、貯金があって借金がなくても、暮らしにくい街だったら、私は住みたくないわ。」



「そうだね。確かに市町村の仕事は、住民にとって暮らしやすいまちづくりを進めることだから、それだけでは判断できないよね。だから財政状況を表す指標は一つだけじゃなくていくつもあるんだ。例えば、代表的なものとして『経常収支比率』^{けいじょうしゅうしひりつ}や『実質公債費比率』^{じっしつこうさいひりつ}というものがあるんだけど、どんな指標なのか、それぞれ見てみよう。」



経常収支比率



「まずは『経常収支比率』^{けいじょうしゅうしひりつ}だよ。これは、市税のように毎年入ってくるような収入に対して、必ず支払わなければならないお金がどれくらいあるのかを示す割合のことで、各市町村の財政にどれくらいの余裕があるかを表しているんだよ。この数値が低いほど、市独自の事業など自由に使えるお金が多いということなんだ。つまり、建物や道路をつくるなどの臨時的な経費に対応しやすくなるんだよ。」



「う〜ん、なんだか難しくてよくわからないわ。」



「例えば1人暮らしの会社員であるAさんとBさんという人がいて、それぞれ毎月30万円の収入があるとする。そうすると、この二人はこの30万円を好き



なことに自由に使えるかな？」

「それは無理よ。だって、生活するためには食費とか家賃がかかるでしょ。」

「そうだね。この食費とか家賃とかは、生活をしていくには必ず必要で使い道が決まっているお金ということになるよね。例えば、食費や家賃が合計で月15万円しかかからないAさんと、月24万円かかってしまうBさんでは、どちらがお金に余裕があるだろう？」

収入に対して、必ず支払わなければならないお金の割合が高いと、自由に使えるお金が少なくて困るなあ。



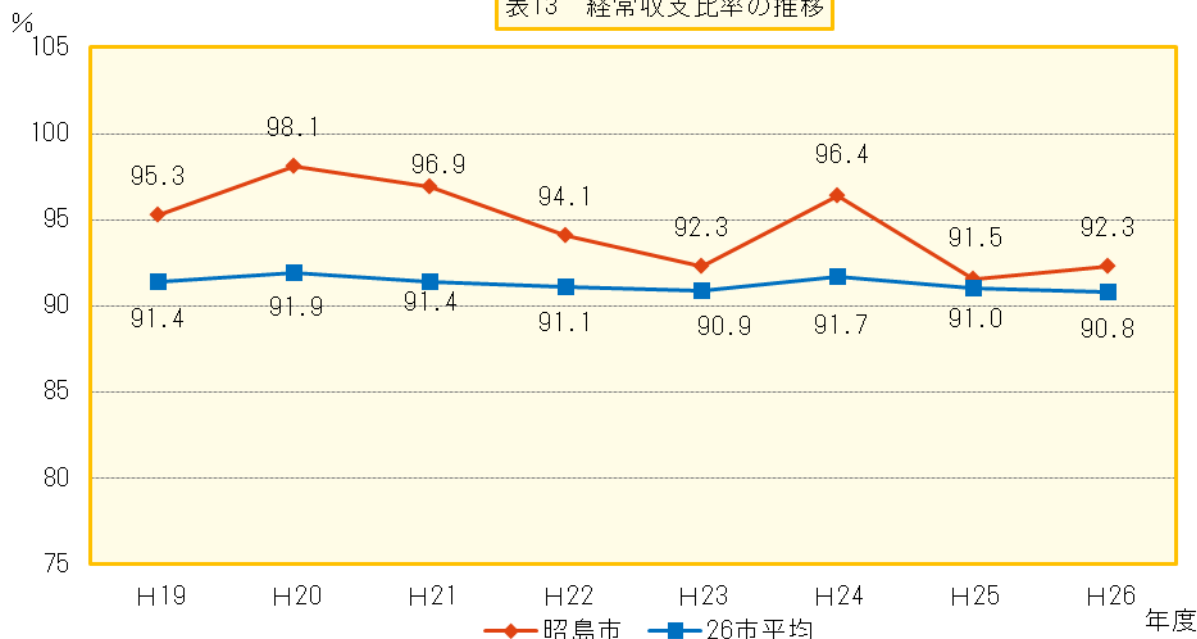
「それは簡単よ。Aさんに決まっているわ。」

「そう。Aさんの方が毎月必ず支払わなければならないお金が少ないから、経済的にはAさんの方が生活に余裕があるはずだね。経常収支比率というのは、これを市町村の一年単位の収入と支出で計算したものなんだ。AさんとBさんをそれぞれ市に見立てると、A市とB市の経常収支比率はそれぞれ50%、80%ということになるんだよ。」

「へ～、確かにこういうやり方なら市町村の財政状況がよくわかるわね。じゃあ、昭島市の経常収支比率は何%なの？」

「下の『表13』を見てごらん。」

表13 経常収支比率の推移



経常収支比率は、高い状態が続いているので、柔軟な対応が難しい状況です。



「平成25年度より0.7%高くなって、経常収支比率は92.3%？それって、1億円収入があっても、そのうち9230万円は使い道が決まっているってこと？」



「そうなんだ。もちろん多摩地域の26市の平均が90.8%だから、昭島市だけがとりわけ高いってわけではないんだ。でも、26市の平均より1.5%高いし、一般的には経常収支比率が80%を超えると財政に余裕がなくなるといわれているから、それに比べたらかなり高い数値ということになるね。」

「原因はなんなのかな？」

「主に二つの原因があると思うよ。一つは歳入の大黒柱である『市税』の収入がなかなか回復しないことかな。さっき例で出したAさんの給料がもし月18万円になってしまったら、当然生活に余裕はなくなってしまうよね」

「そうだね。じゃあもう一つの原因は？」

「もう一つの原因は、歳入は減っているのに毎年必ず支払わなければならないお金（行政サービスの部分）が減っていないことだね。特に歳出のところでも出てきた扶助費は年々増えていて減る見込みはなかなか立たないんだ。昭島市の職員の給料などは減っていつているけれど、退職金も含めると大幅に減らすことは難しい状況だね。」

「う〜ん、昭島市の財政は想像以上に大変なのね！」

実質公債費比率 じっしつこうさいひりつ

「続いて『実質公債費比率』だよ。公債費という言葉から想像できるように借金の返済額に関係があるよ。これは、市税のように毎年入ってくるような収入に対して、一般会計（P.1で説明）の借金に加え、それ以外の水道事業会計、下水道事業会計や市が関係する組合（多摩地域の26市のごみを処理している組合など）などの借金を市がどれだけ負担しているかを示す割合のことだよ。」

「う〜ん、あんまりイメージがわからないなあ。」

「それなら私たちの家計に置き換えてみよう。私たちの家計を1年単位で見て、給料などの収入の中に、住宅ローンなどの借金の返済がどれくらい占めているかという割合なんだ。」

「へ〜、それなら少し身近に感じられるわね。」

「銀行などから借りているお金が返せなくなると、とても大変なことになるから、給料などの収入を考えながら、借金の返済額が多くなりすぎないように気を付けなくちゃいけないんだ。」

「率が低いのと高いのはどちらがいいんだろう？」



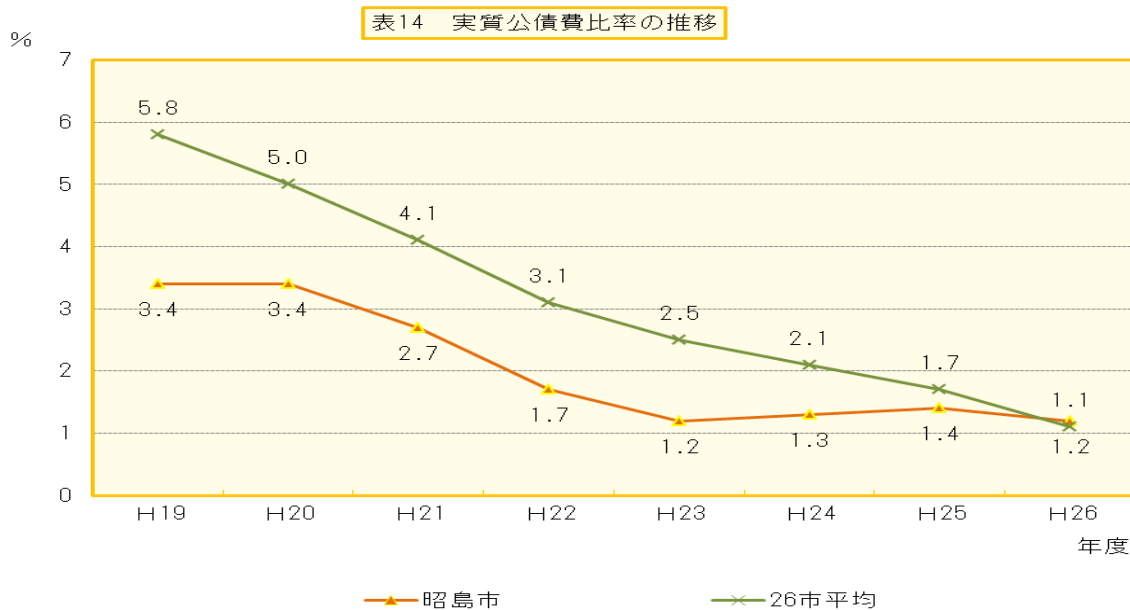
「実質公債費比率は借金の割合を示す数値だから、なるべく低い方がいいんだよ。18%を超えてしまうと借金するときに、国の許可が必要になってしまうんだ。」



「えっ！市が借金をするのに、国の許可が必要だなんて、大変だ。昭島市の実質公債費比率は何%なの？」



「下の『表14』を見てごらん。」



「平成26年度の昭島市の実質公債費比率は1.2%で、26市中12番目に低いんだよ。」



「へ～、確かにこういう表を見ると、昭島市が大幅に借金に頼ることなく、財政運営を行っていることがわかるわね。」



現在の昭島市の財政状況をまとめると・・・



「最後に現在の昭島市の財政がどんな状況にあるのか、考えてみよう。」



「さっき見た指標からも、昭島市の財政は健全だし、余裕があるんじゃない？」



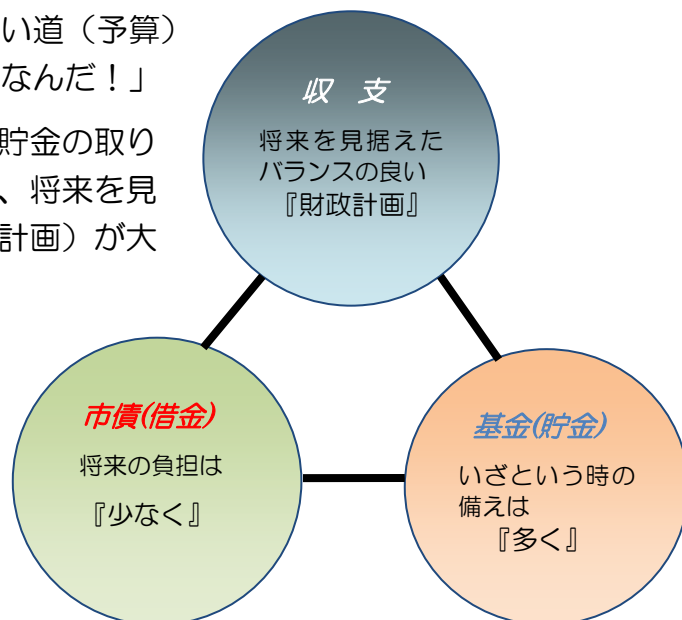
「本当にそういえるかな？景気が回復してきたといっても、市税がどこまで回復するかはわからないし、一方で扶助費などの社会保障に係る経費の増や公共施設の老朽化への対応、その他大規模な建設事業を予定している昭島市の財政状況は、健全ではあるけど、決して余裕のある状況ではないんだ。」



「えっ！そうなの！？」

「そこで大事になってくるのは、中長期的に将来の財政計画（見通し）をたて、これから先の状況を視野に入れた上で、現在のお金の使い道（予算）をバランス良く計画することが大事なんだ！」

「私たちの家計と同じで、市の財政も貯金の取り崩しや借金に頼ってばかりではなく、将来を見据えたバランスのとれた収支（財政計画）が大事なことね！」



「これまで色々な面から昭島市の財政状況を見てきたけど、昭島市の財政が前より少しはわかってくれたかな？」

「うん！」

「それならよかった。今回は昭島市の財政に関して簡単な部分しか教えてあげられなかったけど、昭島市の財政状況は広報やホームページでも年に数回公表されているよ。もっと詳しく知りたくなったらのぞいてみてね！」

昭島市では、昭島市公式ホームページや広報紙で、下記の財政情報を公表しています。

□公式ホームページ URL <http://www.city.akishima.lg.jp/060/070/index.html>

当初予算大綱・概要、補正予算概要

上半期財政状況・下半期財政状況・決算状況

決算カード、財政状況資料集、比較分析表

健全化判断比率及び資金不足比率の状況

財政白書（昭島市の財政）、財務書類



昭島市中期財政計画

□広報あきしま

当初予算：4月1日号

決算：10月15日号

上半期財政状況：12月1日号

下半期財政状況：6月1日号

※広報でのお知らせ時期は前後することがあります。

